

コロナ禍に詠う



福島県現代詩人会

・道しるべ

あべ 和かこ・・・1

・大惨事世界大戦

岩田武昭・・・2

道しるべ

あべ 和かこ

自分の息子に名前を付けるとき
この小さな生命
これから歩もうとしている
旅路が健やかであれ幸せであれと
文字という色彩のない記号に
願いを込めずにはいられなかった

消え入りそうな儂い指ではあったが
握り返す思いがけない力強さに
この子の旅は既に始まっているのだと
自分で命を燃やしているのだと
湧き立ち充滿する湯気のような
生気を感じた

目蓋の上に黒い雲がのしかかり
空に煌めく星たちの笑い声が
聞こえなくなる日もあるだろう
飛び込んでくる雑音ばかりが気になって
いつもそばに立っている止まり木の子守歌を
疎ましく思うときもあるに違いない

名前とはそのとき
世界を自分の名に沿ってこじ開け
自分の名を
世界の始まりに参加させようと試みる
熱と色彩と
もの言わぬチカラに満ちた言葉

だからこの子に命名するいま
名前とは
この世に生まれ出たばかりの
迷いながら伸びようとする
風のような心のような
未決定な存在に
明かりを灯してあげる
道しるべなのである

大惨事世界大戦

岩田武昭

第三次世界大戦は

高度情報社会で繰り広げられる

そんな予言を思い出した

新型コロナウイルス

この大惨事は

第三次世界大戦なのだ

敵は民衆に潜み込み

せきの手榴弾と手垢の地雷

クシャミの散弾銃で無差別攻撃

お前は既に死んでいると言われても

無自覚期間があるから

ゾンビとなって加担してしまう

社会的な人ほど苦しい戦いである

国際人道法では

大量破壊兵器として

化学兵器や細菌を使用する

生物兵器は禁じられている

しかしなぜか

核兵器は禁じられていない

そして心を破壊する兵器も

禁じられていないが

第三次世界大戦では

もう兵器はいらないのだ

敵対国の経済を攻撃するには

感染者を送り込んで

街中をベタベタ触りまくればいい